

総合的な学力の向上を目指して

— 第55次 福井県学力調査をふまえて —



中学校



総合的な学力の向上を目指して

— 第55次 福井県学力調査をふまえて —

平成19年6月発行

編集・発行 福井県教育研究所
〒918-8045 福井市福新町2505
TEL (0776) 36-6192

〈福井県学力調査の目的〉

本調査は、県内の児童生徒の学習状況および学習と生活に関する意識や実態を把握するとともに、調査を分析することにより学習指導上の課題を明らかにし、学力向上に資することを目的とする。

〈調査期間〉

平成19年2月8日(木)～16日(金)

〈調査対象生徒、教科等〉

県内の中学校第2学年 8,217人
国語・社会・数学・理科・英語・学習や生活に関する調査

平成19年6月

福井県教育研究所

国語

文章全体の流れの中で言葉の意味を正確にとらえる学習が必要です。

話す・聞く能力

- ◎話し合いの話題や方向をとらえ、それぞれの発言を注意して聞き取ることは十分定着しています。
- ◎話し合いを効果的に進める力に課題があります。

▶ 説得力のある表現の仕方に気付き、自分のスピーチに生かす学習が必要です。

書く能力

- ◎段落を意識して書くことは十分定着しています。
- ◎体験や事実と意見を分けて文章を書く力が不十分です。

▶ 体験や事実と意見をはっきりと区別した文章を視写したり、構成をまねて書いたりする練習が必要です。

読む能力

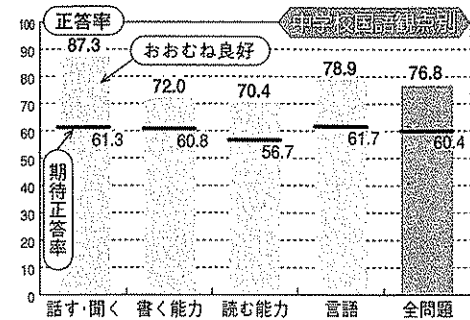
- ◎説明的文章の論の展開の中で、語句の意味をとらえることは十分定着しています。
- ◎文学的文章の中で、人物の心情を表す言葉の意味をとらえる力が不十分です。

▶ 心情を間接的に伝える表現に傍線を引いたり、ノートにメモしたりしながら、文章全体の流れの中で言葉の意味をとらえる練習が必要です。

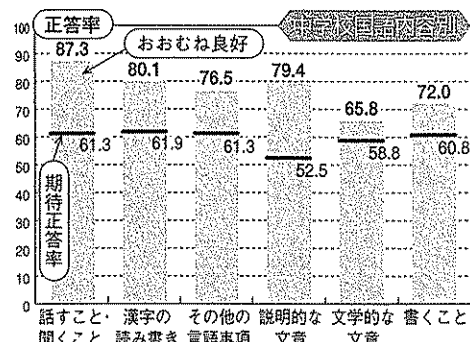
言語についての知識・理解・技能

- ◎語句の意味を理解し、対義語を指摘することは十分定着しています。
- ◎語句の修飾関係を理解する力に課題があります。

▶ ある文を文節ごとにカードに記入し、それを並びかえることを通して修飾関係を確認する学習が必要です。



◎ 4観点とも「良好」です。



◎ 「文学的文章」を読む能力の向上を図る必要があります。

数学

問題を解決する活動などを通して、筋道を立てて考えていく学習が必要です。

数学的な見方や考え方

- ◎合同な三角形を見つけること、与えられた式がどのような考え方によるのかを説明することはおおむね定着しています。
- ◎数量の変化を読み取って式に表すことや、折り返した図形の対応する辺や角を考察する力が不十分です。

▶ 2つの数量関係について、それらの間の変化や対応の関係を調べ、それを表に表し、式を作り、グラフにかく学習が必要です。
▶ 観察、操作など、実際に作業をすることによって、図形の見方を深めることが必要です。

数学的な表現・処理

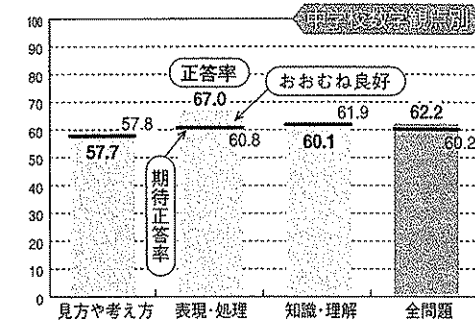
- ◎数の四則計算、図形の証明で結論を表すこと、連立方程式を解くことはおおむね定着しています。
- ◎反比例の関係を式に表すことやグラフをかくこと、等式を変形してある文字について解くことは不十分です。

▶ 反比例の関係を表、式、グラフなどで表現し、その特徴を読み取る学習が必要です。
▶ 等式の性質をイメージするために、上皿天秤を用いた操作的な活動を取り入れ、それと対応させながら、式の変形を進めていく必要があります。

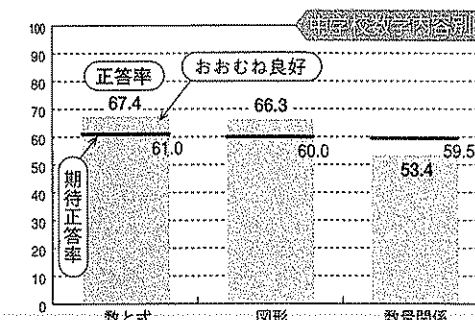
数量、図形などについての知識・理解

- ◎空間における平面の位置関係、直線の傾きや切片の理解については十分定着しています。
- ◎一次関数の式でないものを指摘したり、負の数の大小関係を理解したりすることが不十分です。

▶ 様々な事象の中から具体的な数値を当てはめて、 $y=ax+b$ という式で表される関係が一次関数であることを、理解することが必要です。
▶ 温度計と数直線を結び付け、具体的な気温と数直線上の数を対応させることにより、数の大小関係をつかむ学習が必要です。



◎ 「表現・処理」は「おおむね良好」です。
◎ 「見方や考え方」、「知識・理解」は努力を要します。



◎ 「数量関係」の学習内容は定着を図る必要があります。

社会

歴史的な事柄を時系列に整理する学習が必要です。

社会的な思考・判断

- ◎商店街の聞き取り調査の手順を適切に並べること、打製石器の写真から旧石器時代の生活を考察することはおおむね定着しています。
- ◎台風を原因とする自然現象による災害を考察すること、開国から江戸幕府滅亡までの過程を順に考えることは不十分です。

▶ 地震や火山が多く、複雑な気象の変化が発生しやすいという日本の地域的特色をまとめ、災害との結びつきを考察することが必要です。
▶ 年表形式にまとめる作業的な学習を取り入れることで開国から明治維新までの事柄の因果関係について考えることが必要です。

資料活用の技能・表現

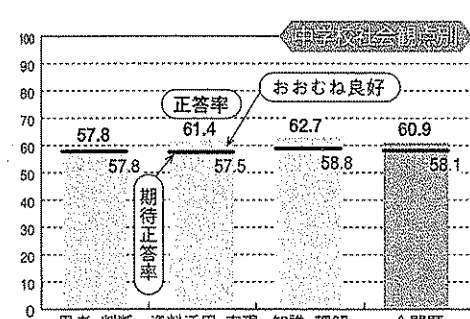
- ◎3つの資料から東京が多面的な日本の中心であることを指摘すること、地形図の見方、きまりを指摘することは定着しています。
- ◎世界地図を利用して時差を読み取ること、地図の縮尺を理解し計算することは不十分です。

▶ 地球儀を活用することで球面上の位置関係をとらえることが必要です。
▶ 大きな縮尺の身近な地図を活用し、地図上の距離から実際の距離を求める計算を繰り返し練習することが必要です。

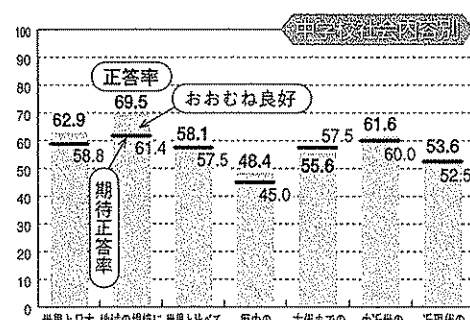
社会的な事象についての知識・理解

- ◎蘭学の基礎を築いた人物を指摘すること、ブラジルを含む州を指摘することはおおむね定着しています。
- ◎領国下の日本の対外関係についての理解や立憲政治成立の過程で大日本帝国憲法が制定されたことの理解が不十分です。

▶ 地図上でまとめる作業的な学習を取り入れることで領国下の対外関係を理解することが必要です。
▶ 民権運動の高まりから大日本帝国憲法の制定までを年表にまとめること、その意義や特徴をワークシートにまとめることが必要です。



◎ 「思考・判断」の観点は課題があります。



◎ 歴史的分野の学習は定着を図る必要があります。

理科

理解を伴った正しい知識を身に付ける学習が必要です。

科学的な思考

- ◎動物の種類を判断して体温の変化を推定することはおおむね定着しています。
- ◎グラフの融点をもとに物質を何種類かに分類する力は不十分です。
- ◎水に溶けにくい気体を判断し、適切な捕集方法を考察することも不十分です。
- ◎水への溶け方から、溶けている物質を取り出す方法を考える力も不十分です。

▶ 物質によって融点が決まっていることを確かめる実験や、気体の性質・利用例・捕集方法等を話し合い、表にまとめるなどの工夫が必要で。
▶ いろいろな物質の飽和水溶液を冷やしたり、結晶の取り出し方を変えたりする比較実験などを行い、科学的に考える力を育てる必要があります。

観察・実験の技能・表現

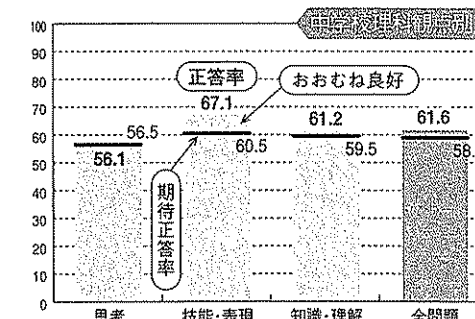
- ◎だ液のはたらきを調べる実験に関する技能は十分定着しています。
- ◎3か所の柱状図を1つの柱状図にまとめて表すことも十分定着しています。
- ◎実験の結果から、マグネシウムの質量と化合した酸素の質量をグラフにかくことは不十分です。
- ◎メスシリンダーで体積を読み取ることも不十分です。

▶ 実験によって収集されたデータを適切に処理するための表を準備し、目的に応じた適正なグラフをかく方法を身に付ける必要があります。
▶ 実験器具の基本的操作は、生徒個別にパフォーマンステストなどをして確実に身に付ける工夫が必要です。

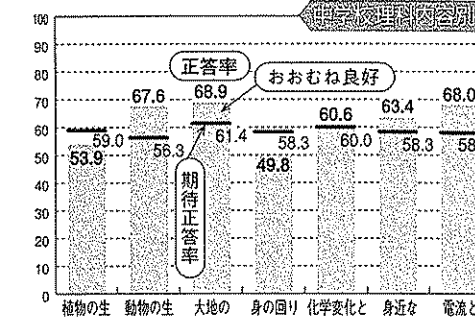
自然事象についての知識・理解

- ◎ワット数が大きいほど発熱量が大きくなるという知識は十分定着しています。
- ◎葉でつくられた養分が通る部分についての知識は不十分です。
- ◎温度変化を表すグラフと物質の状態との関係についての知識も不十分です。

▶ 葉や茎などの師管と道管の位置関係を植物全体につなげるような表を作ったり、冷やした氷を溶かして状態変化を観察するなど、実感を伴った理解を深めた上で知識を身に付けることが必要です。



◎ 「技能・表現」、「知識・理解」はおおむね良好です。
◎ 「科学的な思考」は努力を要します。



◎ 「植物の生活と種類」、「身の回りの物質」、「化学変化と原子・分子」の学習内容は定着を図る必要があります。

正確さを伴う実践的コミュニケーション能力を高める学習が必要です。

表現の能力

- 自分の考えや気持ちを適切な語句や表現を使用し、必要な分量で表現することはおおむね定着しています。
- 文法に従って、読み手に伝わるように正確に表現することに課題があります。
- インタラクション(言葉を介しての相互意思伝達・対話)を通して発話を修正するフィードバックを行い、正しい言語形式に気付かせることが必要です。

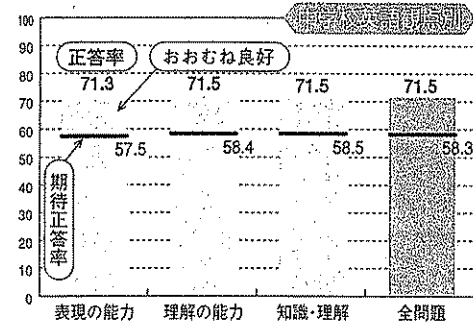
理解の能力

- 対話文における話し手の気持ちや、話題の中心的な内容をとらえることは定着しています。
- たくさんの英文情報の中から必要なものを的確に判断し、整理して聞き分けることは不十分です。
- 段落ごとの内容の流れをとらえながら、個々の具体的内容を正確に位置づけて理解することに課題があります。

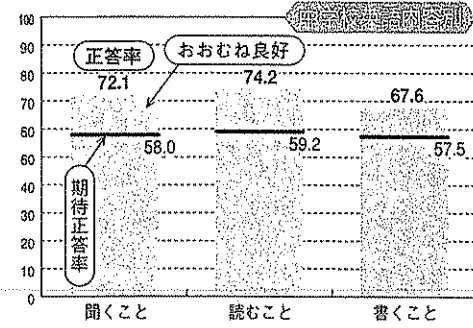
- 聞き取りのポイントのメモをとり、そのメモを活用して、まとまった量の英文から必要な情報を整理する練習が必要です。
- 大事な部分に下線を引いたり、段落の要点を日本語でまとめたりして、話の流れを正しく読み取る練習が必要です。

言語や文化についての知識・理解

- 場面に応じた表現や質問に対する適切な応答については、定着しています。
- 疑問文の語順や時制に対する理解は不十分です。
- 単語カードを利用したり、ペアやグループでインタビュー活動を行ったりして、疑問文の語順を理解する必要があります。
- 時制の区別を意識したインタビュー活動を通して、正しい時制の表現を学ぶ必要があります。



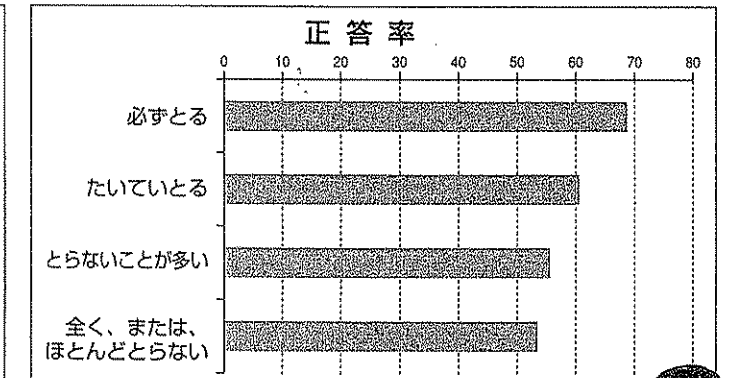
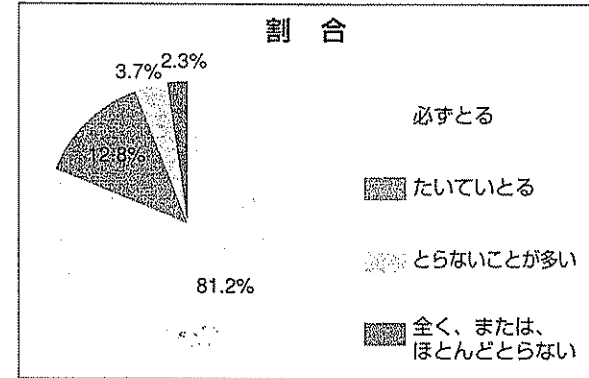
3観点とも「おおむね良好」です。



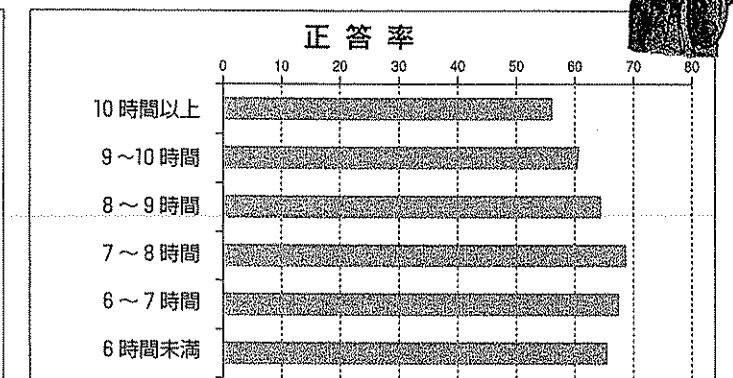
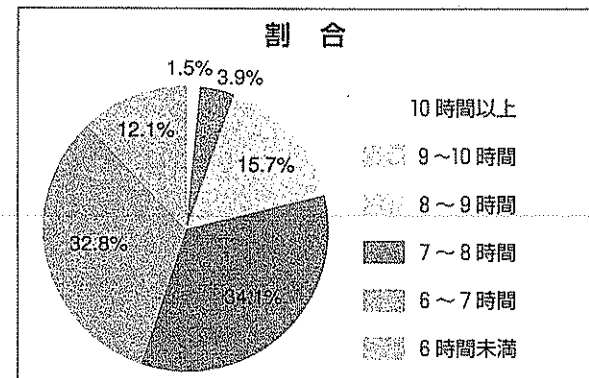
「書くこと」についてはより定着を図る必要があります。



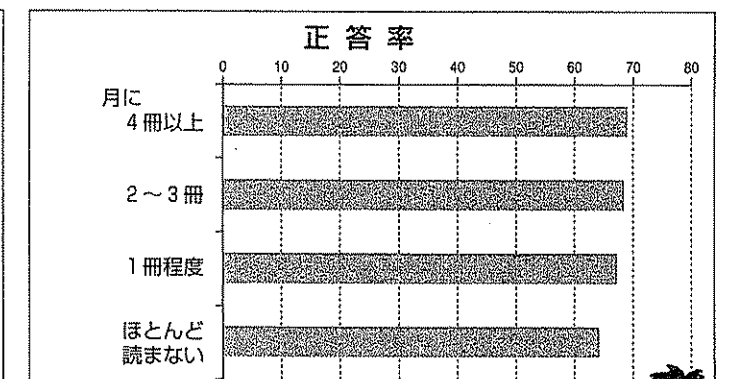
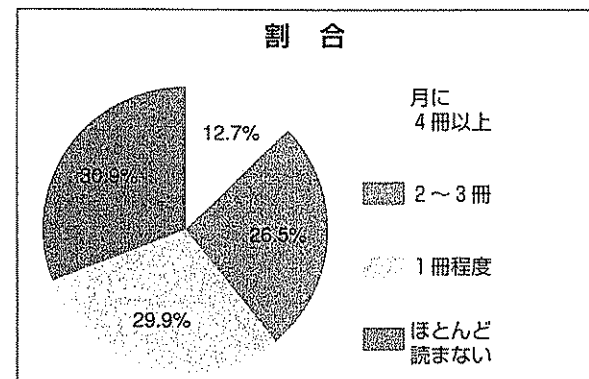
朝食を食べてくる子どもは正答率が高くなっています。



7～8時間の睡眠時間を取っている子どもは、正答率が高い傾向にあります。



本をよく読む子どもほど正答率が高くなっています。



将来つきたい職業について「考えていない」と答えた子どもの正答率は、やや低い傾向です。

